

国際宇宙ステーション日本の実験棟「きぼう」の利用研究に関する  
宇宙航空研究開発機構及び理化学研究所との  
連携協力協定締結について

平成22(2010)年5月12日

理化学研究所 理事 川合真紀  
宇宙航空研究開発機構 執行役 長谷川義幸

1. 報告事項

宇宙航空研究開発機構(以下、「JAXA」という)と理化学研究所(以下、「理研」という)の間で、「きぼう」利用研究に関する連携協力協定を締結することについて報告する。

2. 経緯

- (1) JAXAと理研は、「きぼう」船外利用において全天X線監視装置(MAXI)や船内の科学実験を共同で進めてきた。
- (2) 「きぼう」の利用研究について、JAXA と理研にて意見交換を行い、上記の他、理研における植物研究などの生物学研究、タンパク質の構造解析やレーザー技術の研究など幅広い分野で「きぼう」の利用の可能性が見出された。
- (3) その結果、「きぼう」の能力を最大限に活用し、優れた科学や社会還元成果を創出することを目的に、先端研究を推進する理研とJAXAが連携し、さまざま利用研究活動を長期的に円滑に推進できるよう、「きぼう」利用に関する包括的な協定を締結することとした。

3. 協定の概要

(1) 目的

JAXA 及び理研は、「きぼう」を基礎研究や、研究開発における基盤施設として活用し、人類知的財産への貢献と先進的技術の社会還元を図ることを目指し、「きぼう」利用連携協力を推進する。

(2) 本協定の範囲

- 個別の研究分野と課題の検討(フィージビリティスタディ)の実施。
- その後の「きぼう」での宇宙実験実施までの枠組み。

個別の宇宙実験の実施については、フィージビリティスタディの結果に基づいて、別途、テーマごとの共同研究等を締結する。

(3) 本連携により、期待される効果

- 戦略的な研究の取り組みによる世界レベルの研究成果の効果的創出
- 世界トップレベルの研究実現のための宇宙実験技術の革新
- 実験機器等の開発を含む、長期的な「きぼう」利用計画の実現
- 研究機関側の主体的な取り組みによる「きぼう」利用研究(者)の拡がり
- 上記による新たな研究領域・研究分野の開拓、研究成果の社会還元

(4) 協定の期間

平成 22 年 5 月末(目途)から平成 27 年(2015 年)3 月 31 日

(5) 当面の作業(フィジビリティスタディの実施)

- 「きぼう」利用研究課題の識別、具体化
- 実験手法および機器・技術の仕様確定、実験に必要な運用条件の設定
- 実験計画(案)の作成

4. 備考

理研との本連携をモデルとし、その状況を踏まえて、他の先端的な研究組織とも「きぼう」利用の連携協力協定を締結する考えである。

以 上